

登戸・向ヶ丘遊園エリアの
まちづくりに関するアンケート
実施報告書

1. はじめに

本報告書は、登戸・向ヶ丘遊園エリアの未来ビジョン策定に向けて実施された市民アンケートの結果をまとめたものである。地域の魅力や課題、市民の意見を反映し、今後のまちづくりの方向性を検討するための基礎資料として活用する。

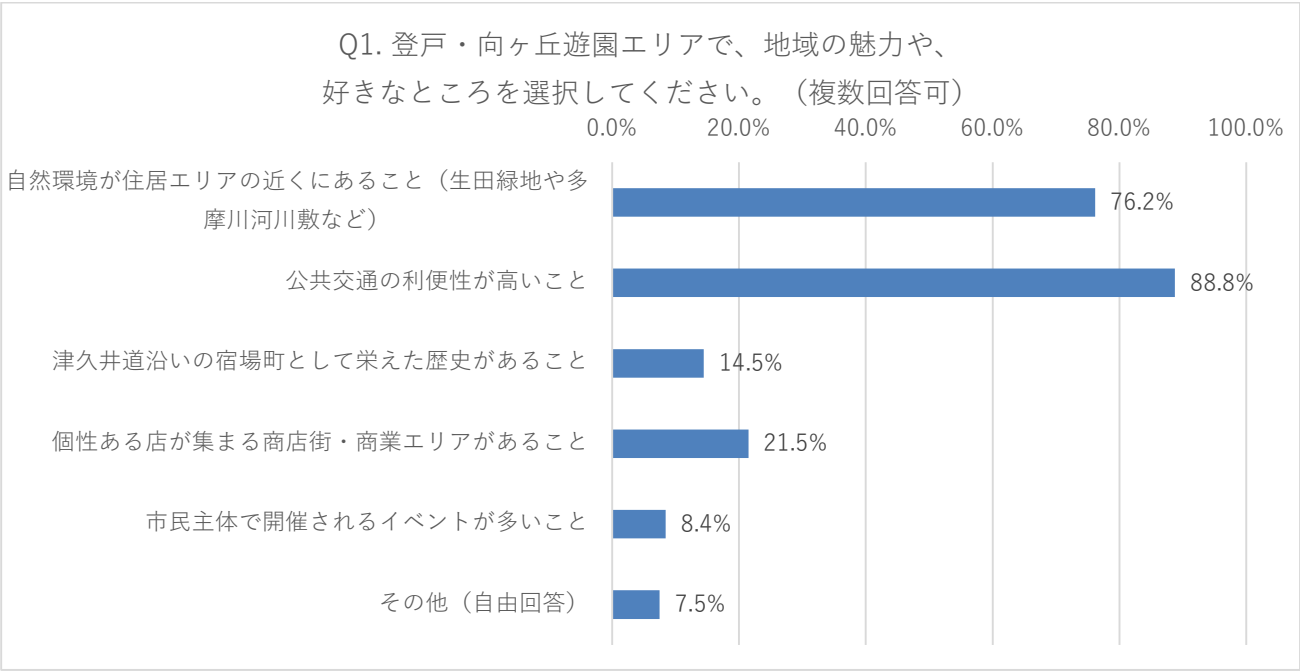
2. アンケート実施概要

実施期間：令和 7 年 9 月 29 日（月）～10 月 14 日(火)
対象：登戸区画整理事業区域内全域
方法：アンケート用紙・オンラインフォームの併用
回答数：214 件（内紙による回答 27 件、オンライン回答 187 件）
設問内容：別紙 1 のとおり

3. 設問別集計結果と各項目の分析・考察

3-1.各設問の回答集計

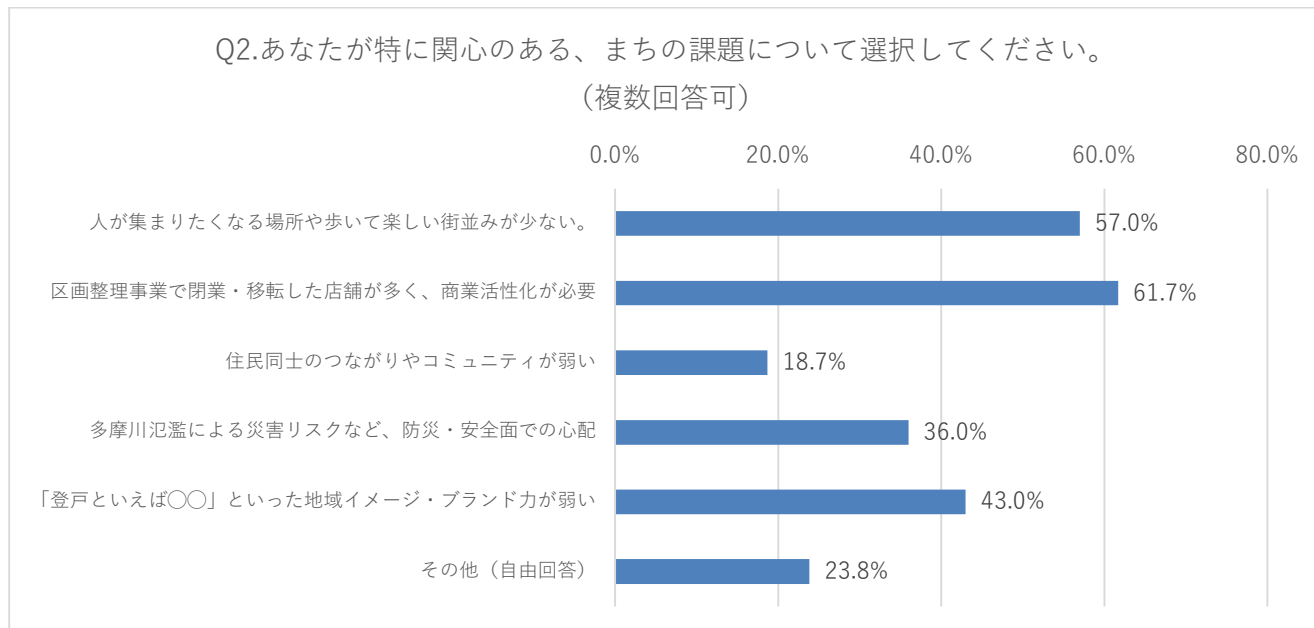
Q1. 地域の魅力・好きなところ（複数回答）



自然環境が近くにあることや公共交通の利便性が高く評価されており、日常と直結した生活のしやすさが地域の魅力として認識されている。

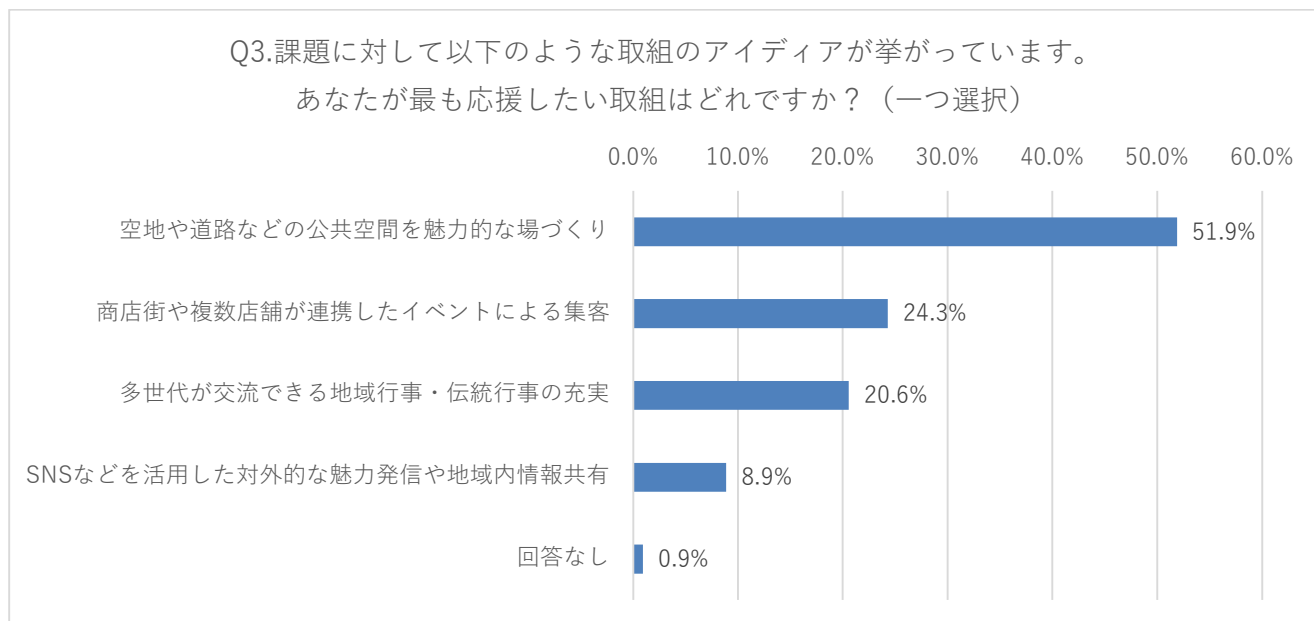
一方、歴史や個性ある商店の有無や市民主体のイベントの多さ等については 1 ～ 2 割程度となっており、あまり魅力として認識されていない。

Q2. まちの課題・関心事（複数回答）



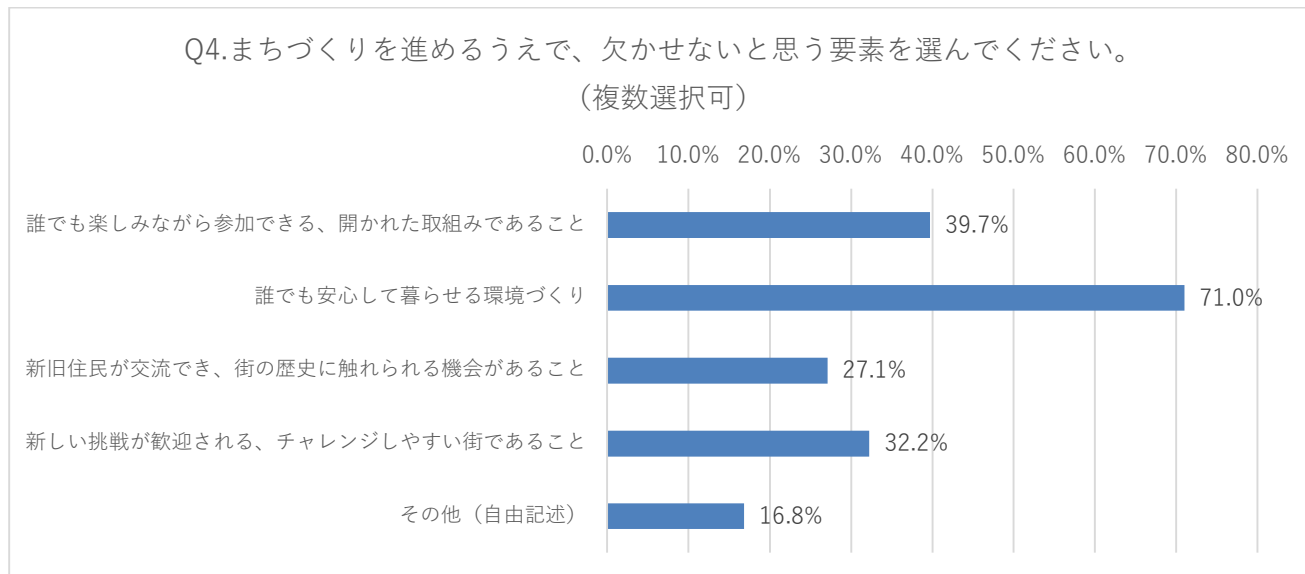
商業活性化や街並みの魅力不足については、半数以上が課題として認識している。また、防災・安全面や地域ブランド力の弱さも4割前後の方から懸念されており、街の魅力づくりと安心感の両立が求められている。一方、住民同士の交流については、課題として捉えている層は2割以下と少ない。

Q3. 応援したい取組（単一回答）



公共空間の活用が最も支持されており、半数以上。空地や道路を魅力的な場づくりに対する期待度が高い。また、イベントや地域行事への関心も一定数あり、地域のにぎわい創出に向けた取り組みが求められている。

Q4. まちづくりに欠かせない要素（複数回答）

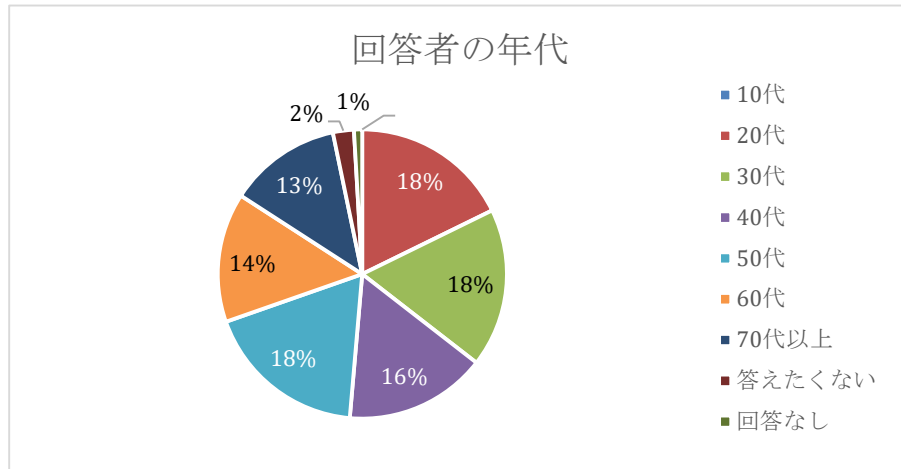


「安心して暮らせる環境づくり」が最多であり、約7割が選択。安全性や生活の安定がまちづくりの基盤として重視されている。次いで、「誰でも楽しみながら参加できる、開かれた取組であること」「新しい挑戦が歓迎される、チャレンジしやすい街であること」「新旧住民が交流でき、街の歴史に触れられる機会があること」がそれぞれ約3～4割選択されている。

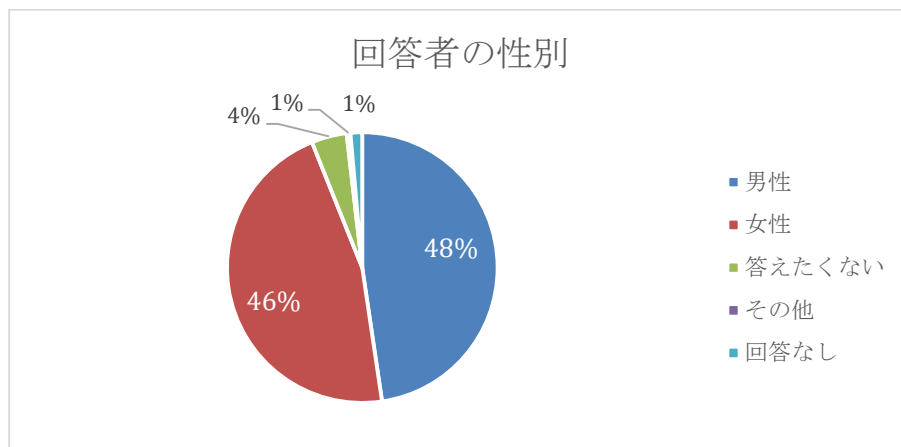
Q5. 自由記述：その他意見・アイディア（代表的な意見の抜粋）

- ・ チェーン店（ユニクロ、無印、カルディ、サイゼリア、コメダなど）の誘致希望や飲食店以外の店舗（衣料品、雑貨、文具など）が少ない等、商業施設・店舗に関する意見
- ・ 子育て世帯向け施設（公園、屋内施設、ベビーカー対応店舗など）の充実や、障害者や高齢者に優しい街づくり、地域コミュニティの形成（たまり場、交流スペース）大学との連携による文化イベントや街づくり参画等、子育て・福祉・コミュニティに関する意見
- ・ 公園に日陰やベンチが少ない、緑が少ない、多摩川沿いの水辺空間の活用等、まちなかの緑やその活用に関する意見
- ・ 横断歩道や歩道橋の設置希望、自転車置き場の不足、歩きスマホや路上喫煙などのマナー改善、
- ・ イベントへの騒音苦情と改善要望等、安全・交通・インフラに関する意見
- ・ 地域資産（生田緑地、多摩川、藤子Fミュージアムなど）を活かしたまちづくりや、魅力的なイベントの開催、地元で使える商品券の発行等、娯楽・文化・イベントに関するアイディア
- ・ 区画整理・まちづくり全般に対して、ハード面（インフラ・施設）への取組の充実化や地域住民への丁寧な説明、若者と従来住民が共存できるまちづくり等を求める意見

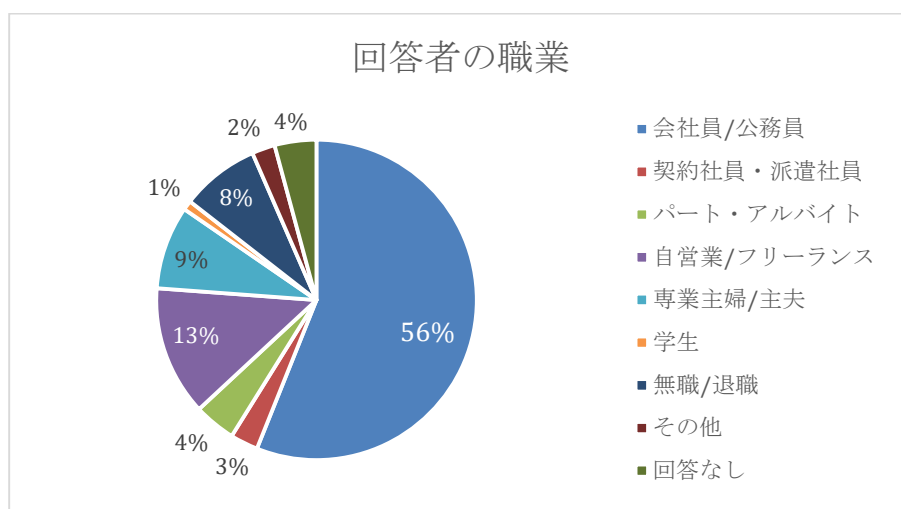
Q6. 属性情報（年齢・性別・職業）



どの年代も1～2割の範囲に収まっており、バランスよく回答されている。



男女比はほぼ均等である。

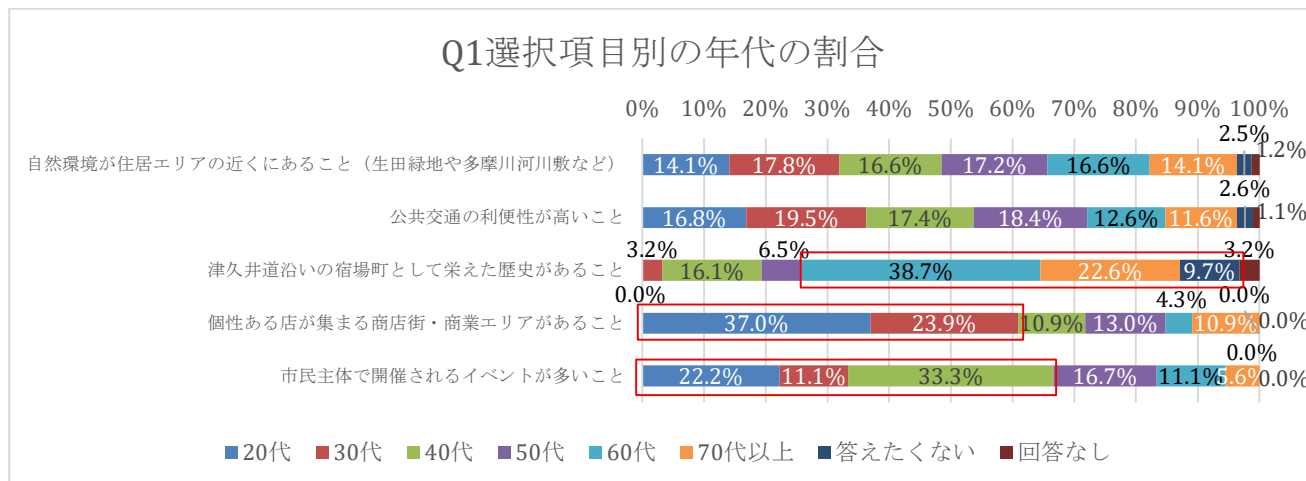


会社員/公務員が半数以上を占める。次いで自営業/フリーランス、専業主婦/主夫、無職/退職が多く、約1割。

3-2.属性情報とのクロス集計

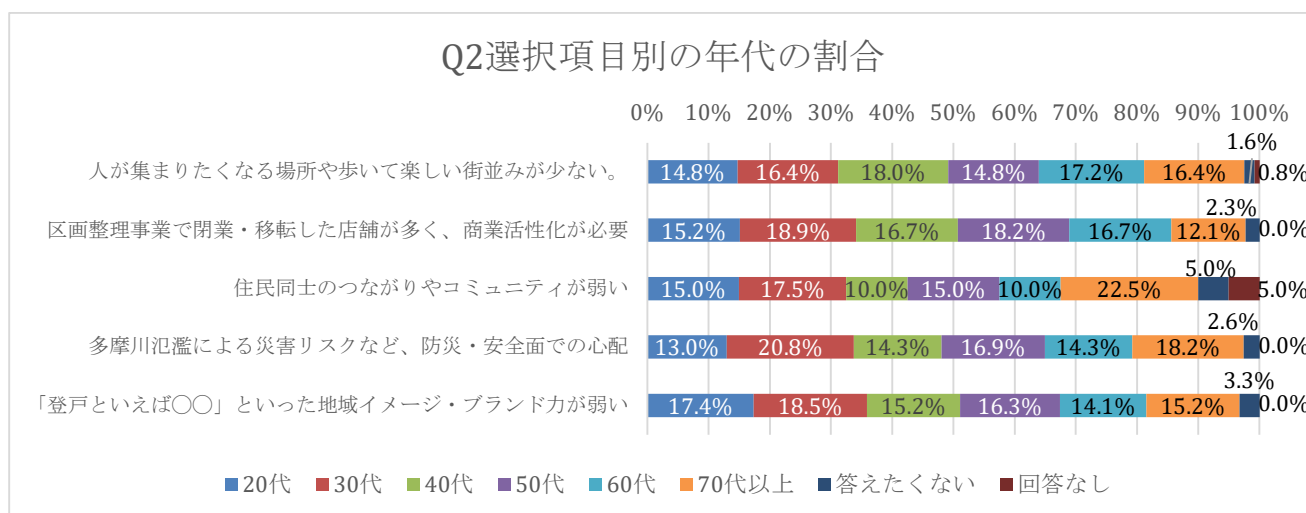
●年代別

Q1. 地域の魅力・好きなところ（複数回答）-年代



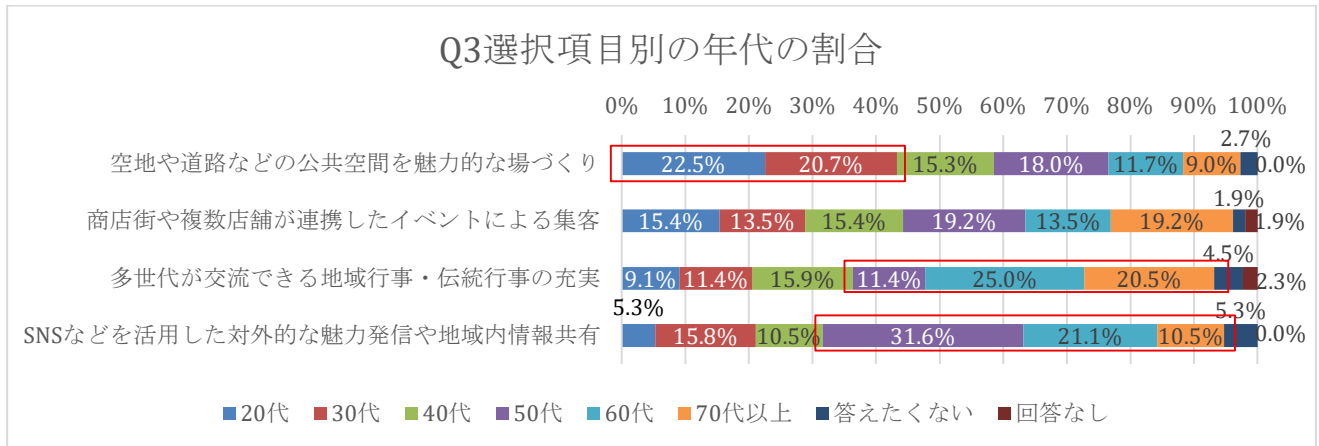
総回答数が多い「公共交通の利便性が高いこと」、「自然環境が住居エリアの近くにあること（生田緑地や多摩川河川敷など）」については、どの年代も偏りなく選択しており、住民全体としてこのエリアの魅力であると認識されている。20～30代は特に、個性ある商店やイベントなど、街の「にぎわい」や「楽しさ」に関心が高い。40代もイベントへの関心は高く、子育て世代に重なるためと考えられる。60代以上で顕著なのは、歴史的背景への評価が高い点である。イベントや歴史については、総回答数が全体の約1～2割にとどまることから、そもそも存在を知らないため、魅力として感じていない層が多数を占めるのではないかと考えられる。

Q2. まちの課題・関心事（複数回答）-年代



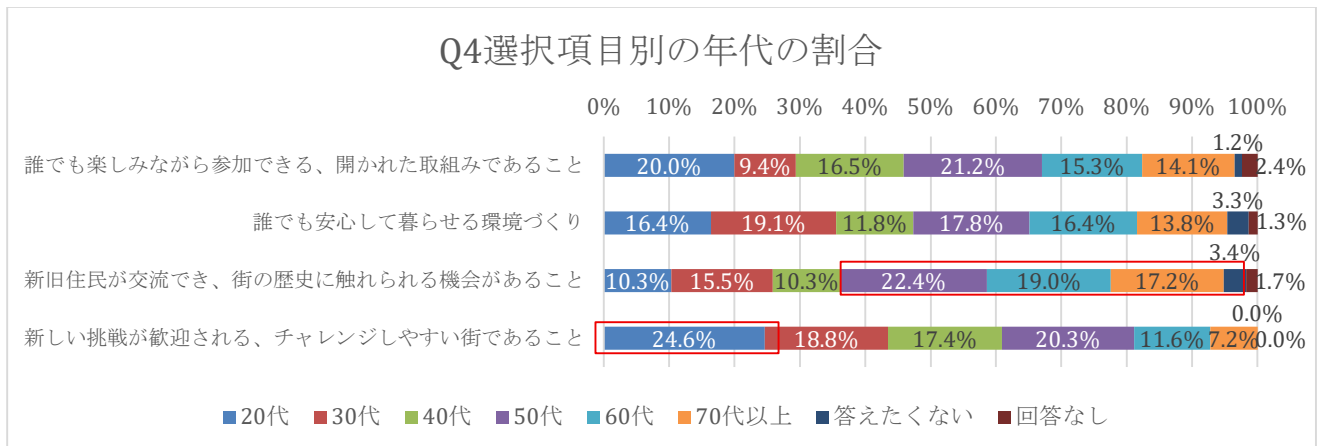
いずれの選択項目に関しても、各年代の割合が1～2割程度であり、年代による課題意識の偏りはあまり見られない。

Q3. 応援したい取組（単一回答）-年代



総回答数が最も多かった「空地や道路などの公共空間の魅力的な場づくり」については、年代ごとの偏りは少ないが、その中でも20～30代の関心が比較的高い。一方、地域行事・伝統行事の充実については、60代以上が約半数を占めており、関心が高いことがわかる。また、SNSの活用については、50代の関心が最も高く、次いで60代の割合が高いことから、40代以下の層については、既にSNS等を活用しているため、必要性を特に感じていない可能性も考えられる。

Q4. まちづくりに欠かせない要素（複数回答）-年代

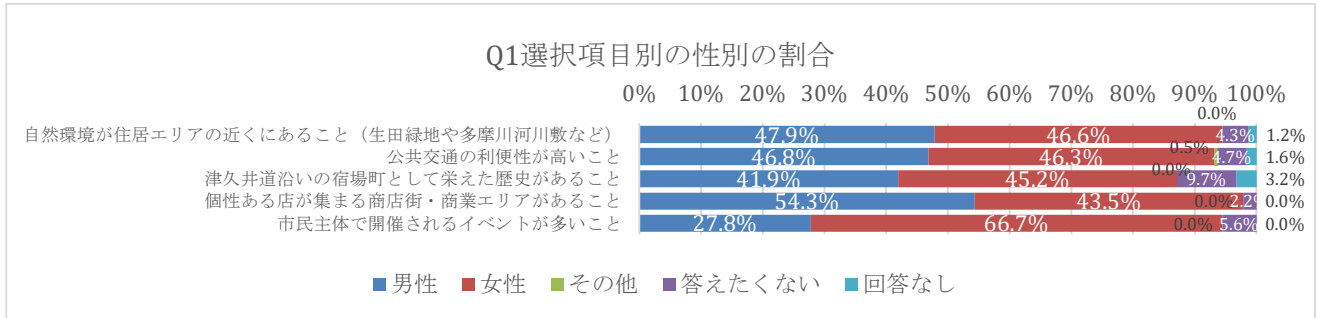


総回答数が最も多い「誰でも安心して暮らせる環境づくり」については、いずれの年代も1～2割程度であり、偏りが少ないことから、まちづくりを行う際に大前提となる条件であると考えている方が多いことが考えられる。「誰でも楽しみながら参加できる、開かれた取組であること」についても、年代による偏りは少ない。新旧住民の交流・歴史に触れられる機会については、50代以上が半数を占めており、関心が高いといえる。一方、チャレンジしやすい街であることについては、比較的选择した20代が多く、まちづくりや新たなチャレンジに対する意欲が高い若者層が一定数いる可能性がある。

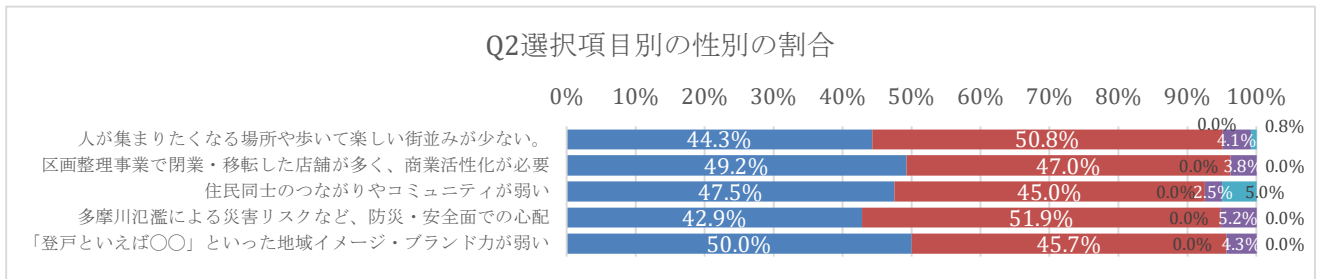
●性別

※性別による選択項目の偏りは少ないため、分析はQ1～4についてまとめて行う。

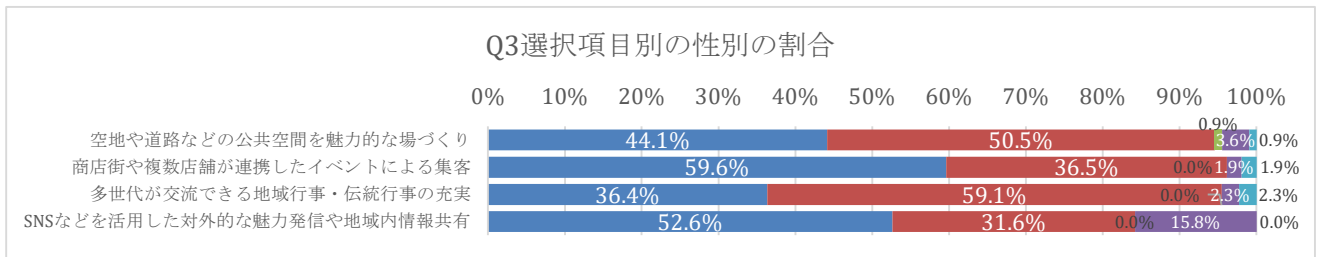
Q1. 地域の魅力・好きなところ（複数回答）-性別



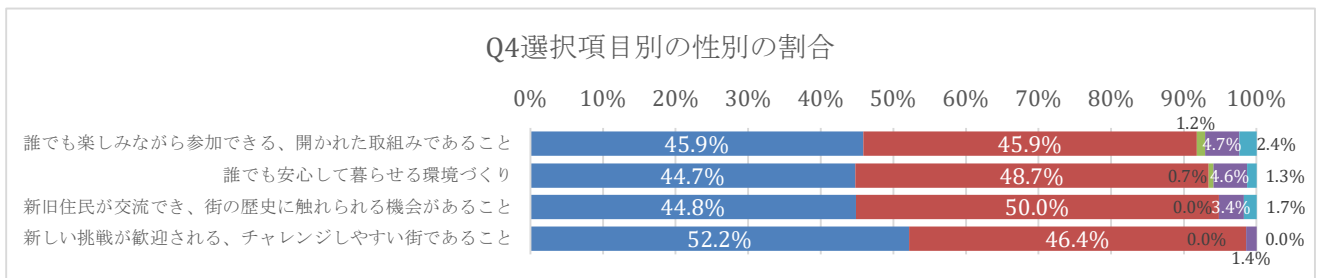
Q2. まちの課題・関心事（複数回答）-性別



Q3. 応援したい取組（単一回答）-性別



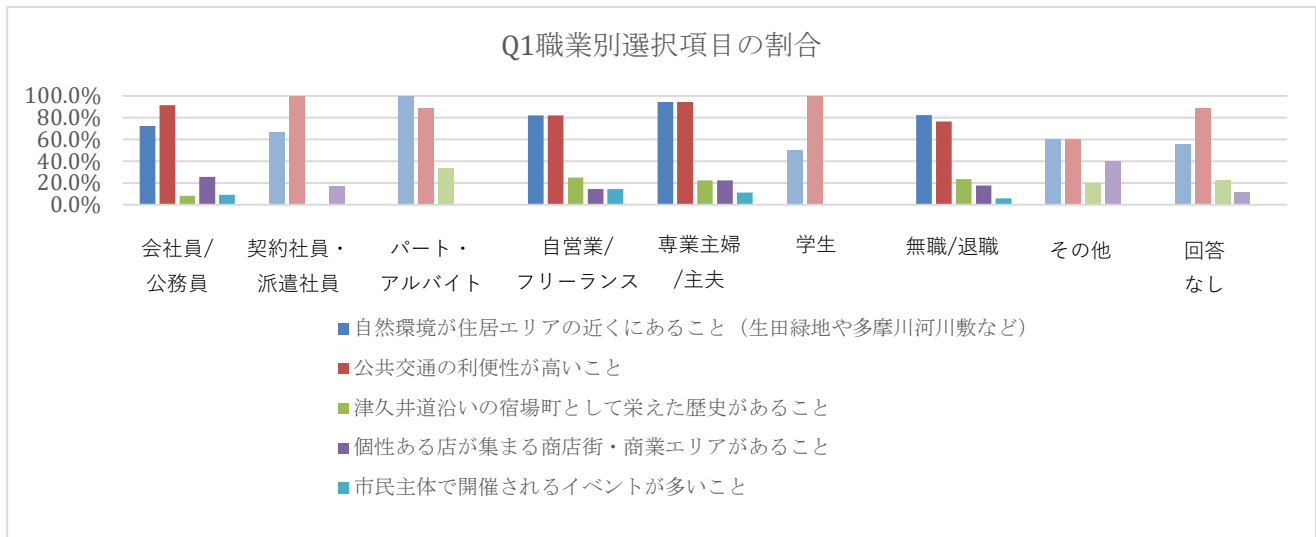
Q4. まちづくりに欠かせない要素（複数回答）-性別



基本的には各選択項目別の性別の割合は、どの選択項目も男女による差は少なく、男女どちらとも5割前後の回答率である。多少ではあるが男女差が現れた部分は、男性は「商業活性化」「対外的なアピールや集客」「新たなチャレンジが受け入れられる」等、外部から見た場合の魅力向上に関心が高い一方、女性は「新旧住民の交流」「歴史ある地域行事・伝統行事」「市民主体のイベント」「安心・安全」等、内部から見た住環境の充実や地域住民との交流に関心が高い部分である。

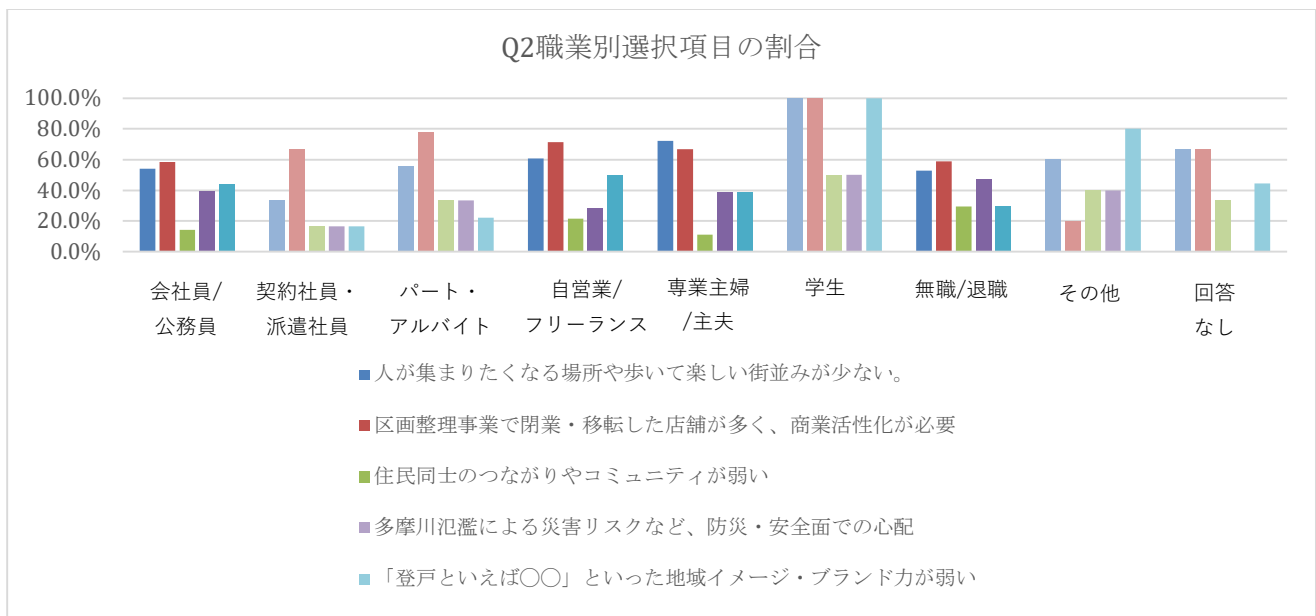
●職業別 ※サンプル数が一桁の「契約社員・派遣社員」「パート・アルバイト」「学生」「その他」「回答なし」については、参考値として扱い、分析の対象外とする。

Q1. 地域の魅力・好きなところ（複数回答）-職業



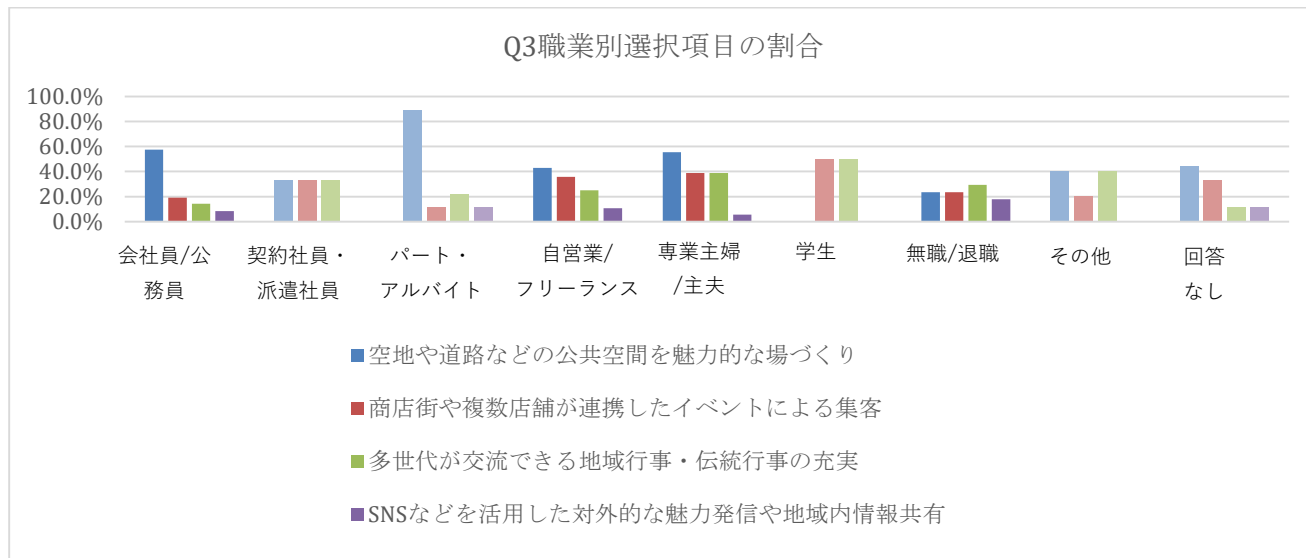
全体的に職業別の回答の偏りはあまり見られず、交通利便性と自然環境を魅力として捉えている層が多い。

Q2. まちの課題・関心事（複数回答）-職業



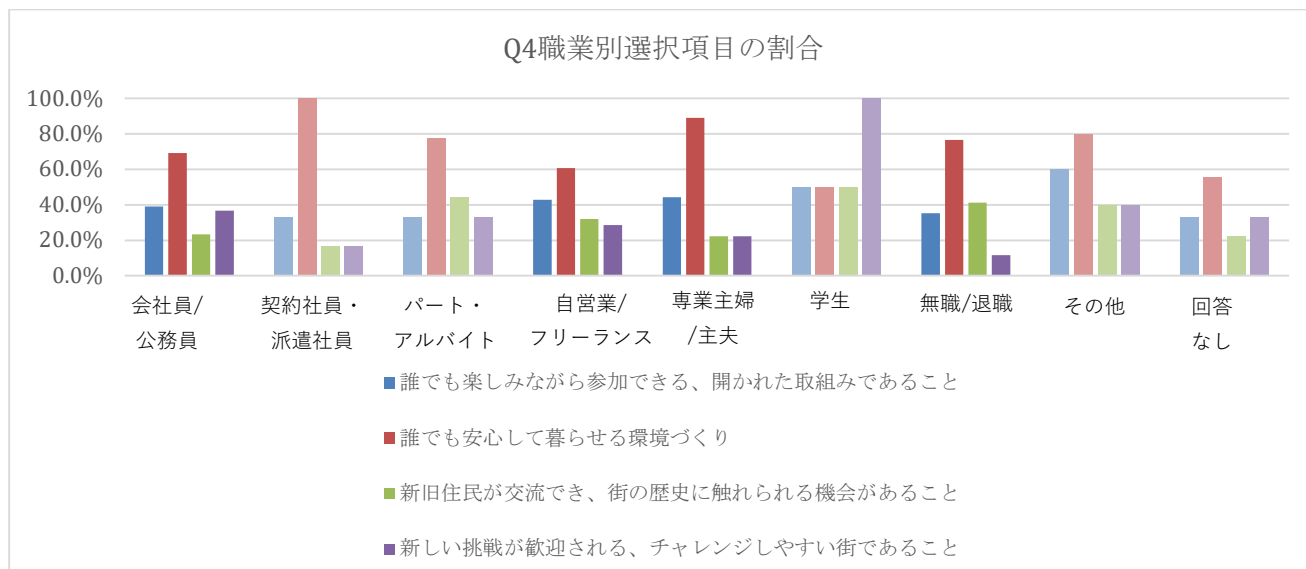
いずれの職業も魅力的な街並みや商業活性化を課題として捉えている層が約半数程度を占めている。また、災害リスクを課題ととらえている層も比較的多く、各職業の3～4割程度を占めている。会社員/公務員や自営業/フリーランスの方は、地域イメージ・ブランド力についても課題ととらえている層が多く、4割以上である。また、自営業/フリーランスや無職/退職の方は比較的、地域住民のコミュニティの弱さを課題として捉えている層が多い。

Q3. 応援したい取組（単一回答）-職業



無職/退職以外の職業については公共空間の魅力的な場づくり、イベントによる集客、多世代が交流できる行事の充実、情報発信の順に選択した割合が多くなっている。無職/退職の方については、どの選択項目もほぼ差はないが、最も高いのは多世代が交流できる行事の充実となっている。総回答数としても最も多いのは公共空間の魅力的な場づくりであることから、幅広い職種から求められている取組であると考えられる。

Q4. まちづくりに欠かせない要素（複数回答）-職業



全体的に「安心して暮らせる環境づくり」が最も支持されており、特に専業主婦/主夫の割合は8割を超えている。次いで、「誰でも楽しみながら参加できる、開かれた取組みであること」が多く、4割前後である。また、無職/退職は、比較的「新旧住民が交流でき、街の歴史に触れられる機会があること」を選択した方が多い。

4. 考察・まとめ

本アンケートを通じて、登戸・向ヶ丘遊園エリアにおける住民のニーズや価値観が多面的に明らかとなった。特に以下のような傾向が顕著であった。

① 地域の魅力としての「生活利便性」と「自然環境」

公共交通の利便性や自然環境の近接性が、全世代を通じて高く評価されており、今後のまちづくりにおいてもこれらの資源を活かしていくことが求められる。

② 商業活性化とまちの魅力づくりへの期待

衣料品や生活雑貨日常生活の利便性向上や、公共空間等を活用した魅力的な場づくりに対するニーズが高い。特に若年層を中心に、まちのにぎわいやブランド力の向上を求める声が多く、地域資源を活かした魅力的な空間づくりが重要である。

③ 安心・安全な暮らしへの関心

防災・防犯、交通安全など、安心して暮らせる環境づくりは、全年代・全属性に共通するまちづくりの基礎的な観点として認識されている。

④ 交流・参加・チャレンジの場づくり

「誰でも参加できる」「新旧住民の交流」「チャレンジしやすいまち」といったキーワードは、登戸オープンミーティングでも繰り返し語られており、今回のアンケートでも一定の支持が見られた。特に若年層では「チャレンジしやすさ」、高齢層では「交流」や「歴史への関心」が高く、世代間の価値観の違いを踏まえた多様な参加の仕組みづくりが求められる。

5. まとめ

アンケート結果より、未来ビジョンの策定にあたっては、交通利便性や自然環境の豊かさなど、現状の利点を生かしつつ、安全で開かれたまちづくり、地域資源の活用などが求められている。また、「誰でも参加できること」、「チャレンジ」、「歓迎」、「新旧住民の交流」、「街の歴史」等、登戸オープンミーティングの中で出てきたキーワードと同様の内容についても、ある一定数以上の住民から求められていることが確認できた。今後は、これまでのワークショップ等で収集した意見に加えて、今回収集した意見の反映の方法を検討し、編集グループによる素案作成を進めていく。

6. 付録

別紙1：アンケート設問一覧